

紀州和歌山の本屋さん！

坂本屋喜一郎家文書

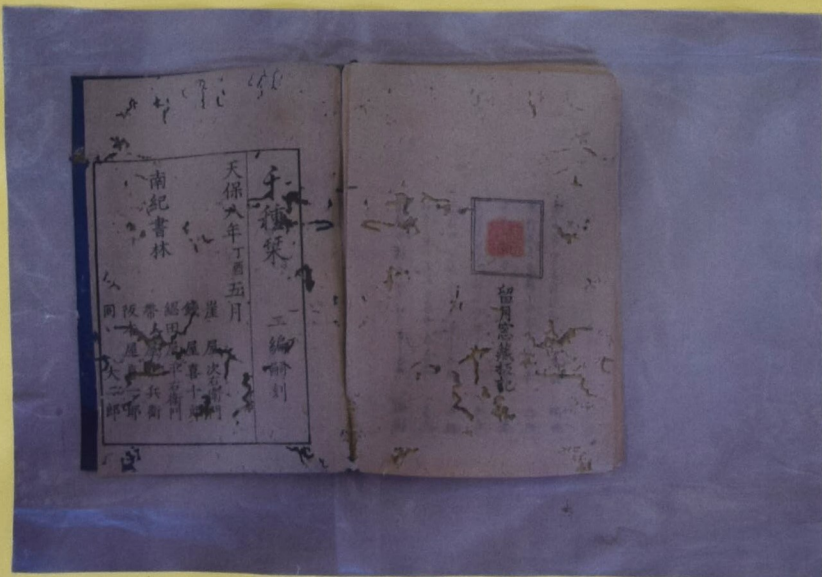
坂本屋喜一郎とは？

坂本屋喜一郎は幕末の城下町和歌山で大二郎という弟と大手の書物屋（書店）をそれぞれ営み、出版、卸、貸本業などを行っていました。店舗は名草郡中野島村（現在の和歌山市中之島）で街道を往来している人々を相手に営業をしていたといわれています。その後、嘉永3年（1850）ごろから駿河町（現在の和歌山市駿河町）に出店していたといわれています。

松尾塊亭の俳句をはじめ種々の名句や四季のものを集めた句集である下の『俳諧千種栞』など、多くの出版物を共同で手がけていきました。

参考文献

- ・須山高明「地方城下町の本屋」（横田冬彦『出版と流通』平凡社、2016年）
- ・和歌山市立博物館『城下町和歌山の本屋さん ―「紀伊国名所図会」を中心に―』和歌山市立博物館、2003年
- ・和歌山県立文書館『古文書徹底解釈 紀州の歴史 つるの嫁入り 偽一九と書物屋喜一郎』和歌山県、2014年
- ・和歌山県史編さん委員会『和歌山県史 近世』和歌山県、1990年
- ・和歌山県史編さん委員会『和歌山県史 近世史料 二』和歌山県、1980年



「俳諧千種栞初編 冬」
(瀬戸家文書 しー265)